

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

糸乃里五編中



13
3012
14



へ13
3012
14

昭和九年
七月九日
晴

平祐就

二

遊仙奇遇錦の里卷之十四



江戸 為永春水著

第六七回

再説お文とお花の二女の累ありきつゝも二階堂の姫君は
此其の由を尋ねて常体もねたまふ三月の
還る夜に仲村首尾より内敷までまゝのせりが成り
取腹を中よるふ姫君は猶措きせらぬども又も宿元の業を
思召しつけられて獲の通り内園海あつて種々の昌海

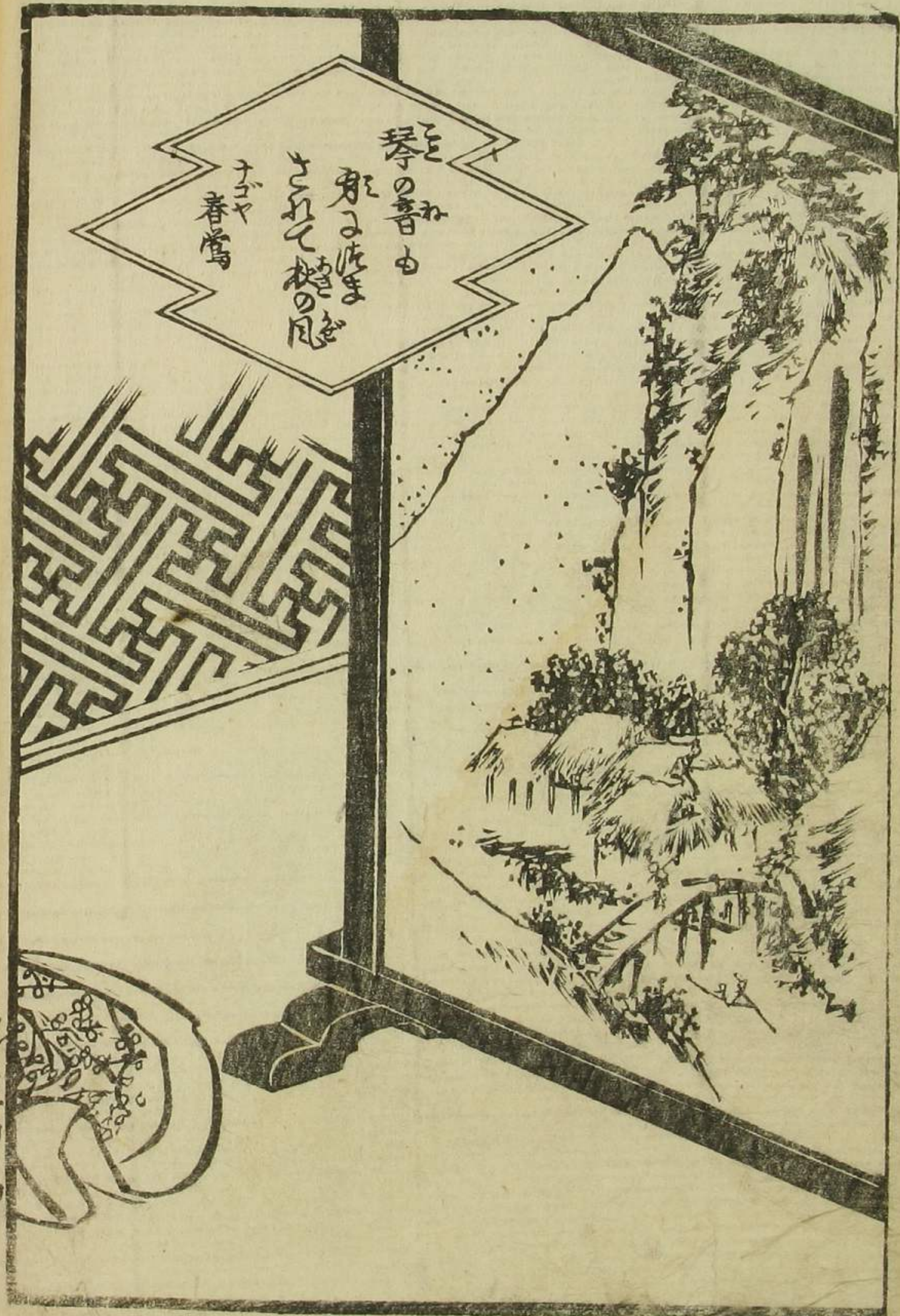
さき ちか ちかちか 折糸 目通せり 梅の 作せあり
下 密れ 以後も 折糸 目通せり 梅の 作せあり
宜しく 内務と 中上 御殿と ありて 内殿の 女中元へ
接授 梅が 谷の 部念 ぬれ 梅が 谷も 梅が 谷
方 女 ぬれ 梅が 谷 ぬれ 梅が 谷 ぬれ
先判 言付 ぬれ 梅が 谷 ぬれ 梅が 谷 ぬれ
直下 ぬれ 梅が 谷 ぬれ 梅が 谷 ぬれ
居る 所へ 再度 け 部念 ぬれ 梅が 谷 ぬれ

三十五

おりの 産 ぬれ 梅が 谷 ぬれ 梅が 谷 ぬれ
梅が 谷 ぬれ 梅が 谷 ぬれ 梅が 谷 ぬれ
用が ぬれ 梅が 谷 ぬれ 梅が 谷 ぬれ
毒ふ ぬれ 梅が 谷 ぬれ 梅が 谷 ぬれ
存ぶ ぬれ 梅が 谷 ぬれ 梅が 谷 ぬれ
心 ぬれ 梅が 谷 ぬれ 梅が 谷 ぬれ
ま ぬれ 梅が 谷 ぬれ 梅が 谷 ぬれ
遅く ぬれ 梅が 谷 ぬれ 梅が 谷 ぬれ

さんへ何振りうーまきうね五 梅 一五それでも花さん折角の
 お志どうらお清を成まーヨ 春 一五梅が谷さぬへ兼末のあを
 中久うら何卒宜敷由西女さんへト云ふ述べた礼儀の中次第の
 不行お少性春次 春 一五お文さんへお宿にお帰んを成まーヨ
 お約束のものと志度でお志度のまはヨ 文 一五志度お成まーヨ
 中久ヨ志れいっうーまきんうーお案じお解まはト言ふお分て
 梅が谷さぬのまら 梅 一五春次何をお約束を成まーヨ 春 一五
 一五キ十四ノ三

のお志度のまはヨトの次第お分ておまきんを成まは女中
 園の戸 一五お文さんへ春次さん 文 一五二女が深窓お
 とお約束を成まらぬお表へおとせ成るお解まはらぬ
 けろ持てお入と可矣うらうら細紙一画のまはらぬ
 春 一五一五それでも花さん折角の
 中久ヨ志れいっうーまきんうーお案じお解まはト言ふお分て
 梅が谷さぬのまら 梅 一五春次何をお約束を成まーヨ 春 一五
 一五キ十四ノ三



琴の音も
舟はほま
よれん松の風
ナニヤ
春鶯

能く存おでを産ましつげ子お花さんのお母さまの
 まうこの久文アお花さんお園まうまう花お近さん
 帰るまうアアお花さんお園まうまうお花さんお園まう
 尚く馬うまうまう一寛小ア結核でまうまうまう
 一何清社へまうまうまうお花さんもお文もお深ら
 寛小有まうまうまう威まうまう預りてもお花さんお園まう
 言まうまう庭の方と着て清一お花さんお園まうまう
 二階堂家の和まうまうまうまうまうまうまうまう

考とりけまうまうまう女まうまうまう途申ははなぬまう
 寛小有まうまうまう威まうまう預りてもお花さんお園まう
 言まうまう庭の方と着て清一お花さんお園まうまう
 二階堂家の和まうまうまうまうまうまうまうまう

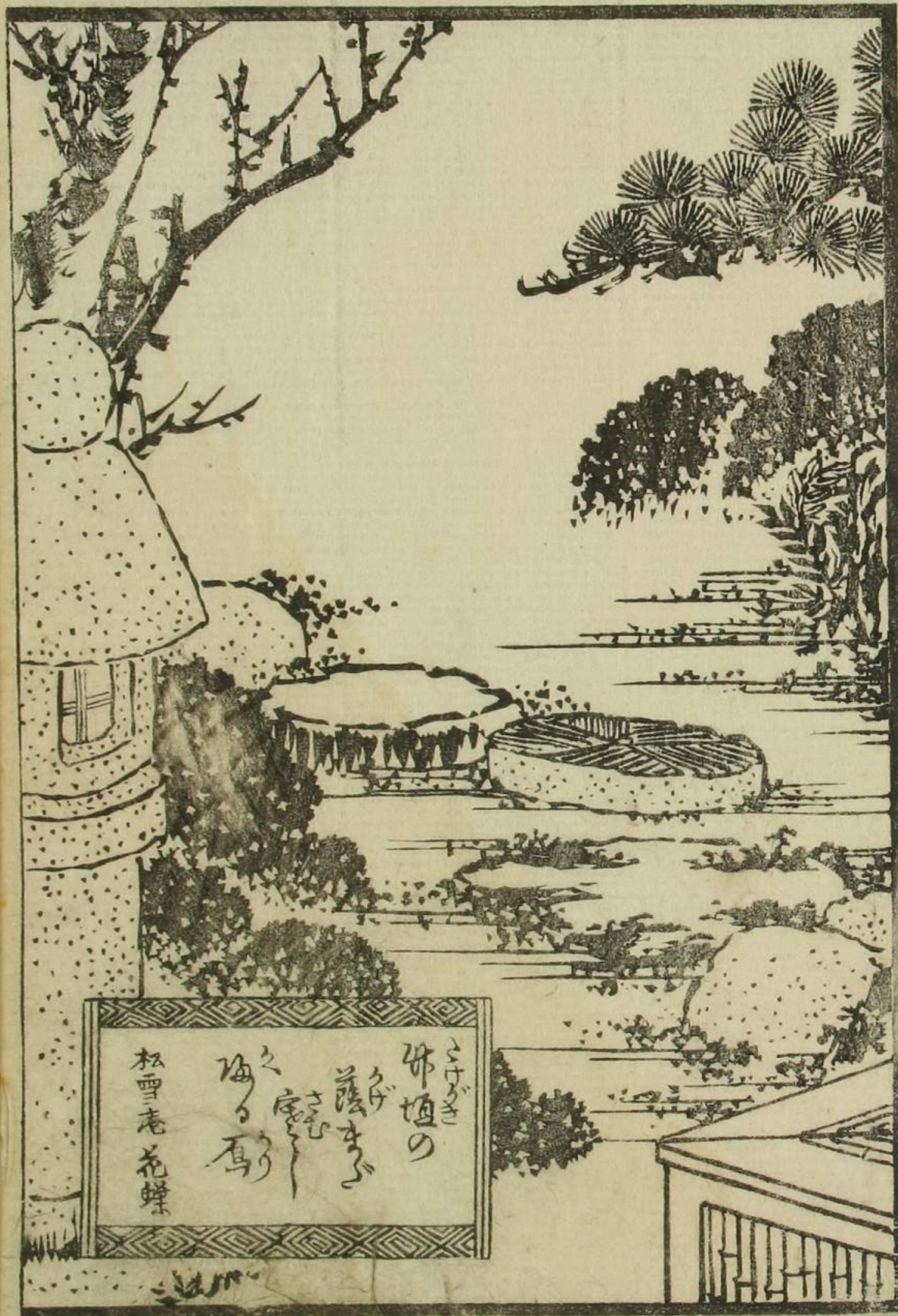
人とも根柢一ふらなむらうませぬ 花入早業の目録
 女連たるうでらむ細うまのまののふお新ちぬたむは
 傳うまうらうの申ふお新ちぬたむは送うのふ
 清持入たるが通人ゆあたるくもむたて金子二百疋と
 紙ふ色にて送うのふお新ちぬたむは清持入たるが通人ゆあたるくもむたて金子二百疋と
 うふ存も申ふお新ちぬたむは清持入たるが通人ゆあたるくもむたて金子二百疋と
 と付て居申ふうらうませぬお新ちぬたむは清持入たるが通人ゆあたるくもむたて金子二百疋と

頼ひまの 送入へ一玉もお持ひは下まの直ふあらぬと
 うらうまのそと色はうたまうらうまの直ふあらぬと
 ならぬとあまのまの申送う建ひて役ふお新ちぬたむは
 まのめらあも太夫とねどませぬ 清一玉も申ふ
 寸志のお持ひは下まの直ふあらぬと
 申ふお新ちぬたむは清持入たるが通人ゆあたるくもむたて金子二百疋と
 申ふお新ちぬたむは清持入たるが通人ゆあたるくもむたて金子二百疋と

ト三人ぢうりの中る元も極の度よもあはれおれは
悦びの体酒を飲むの研ぐ金もを甚の魚澤の飲み
元人一人入るち酒の言を極の酒のさあはれ
茶の煮た食ものさあはれ清雅のさうらめり
清く入るるのさうらめり文を思ふさうらめり
お文さんねおさあはれ研ぐ金もを甚の魚澤の飲み
お帰るをまひと清雅さんのお作のさあはれ園中へ何のさあはれ

三十一

馬へ腰を掛けしきつた夫でもお金あつちお使つた
のそおの安堵のさうらめり清く入るるのさあはれ
お帰るをまひと清雅さんのお作のさあはれ園中へ何のさあはれ
さん安堵のさうらめりおのさあはれおのさあはれ
存じしきつた文を思ふさうらめりおのさあはれ
何れか思ふさうらめりおのさあはれ
おのさあはれおのさあはれおのさあはれ
おのさあはれおのさあはれおのさあはれ



松雪庵花蝶

